

新任農業土木職員のための

初めての言葉・もっと知りたい 用語集

2011. 10. 19版

若い技術者は、日常の会話や打ち合わせの中で「初めての言葉」にとまどうこともあると思いますが、それを理解・吸収しながら成長していきます。

「初めて」は経験とともに「あたりまえ」になりますが、あなたが出会った時の「初めて」を、後輩にわかりやすく伝える（技術の伝承）ことも大切なことだと思います。

「今」わからないことは遠慮なく先輩・同僚に聞いたり、自ら調べたりして

「どうやって後輩に伝えるか」という視点で常に考え、自身の技術力や事務処理能力の向上に努めて下さい。

後輩を育てることが、自ら成長することも忘れないでください

もしかして来年入庁する新人にとって、

あなたは「先輩」になります・・・

この用語集は、平成23年度採用の千葉県新任農業土木職員が初めて耳にした「初めての言葉」や、もっと知りたい内容を毎月報告してもらい、小橋（技術士（農業土木）、ダム管理技士、1級土木施工管理技士）が簡単にまとめて解説したもので、資料としては古いのものかもしれませんが、改良区・行政関係の新任農業土木技術職員の手助けになれば幸いです。

アーム式ベストドレーン工法

あーむしきべすとどれーんこうほう

【解説】独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
農村工学研究所と株式会社パディ研究所が開
発した「暗渠排水施工機械」の特許工法。



【一言】この工法の特徴は

- ① あらかじめガイドを掘削しておくことで、石や、硬い土質でも施工可能
- ② ベストドレーンは掘削と同時にパイプ埋設、疎水材投入ができる。
- ③ 掘削幅は9cmと狭い施工が可能で、モミガラ使用量も少なく済む。
- ④ 作業員数はトレンチャー工法よりも少ない。



RC構造

あーるしーこうそう

【解説】鉄筋コンクリート構造。
(Reinforced-Concrete 補強されたコンクリートの略)

RDF

あーるでいーえふ

【解説】家庭で捨てられる生ゴミやプラスチックゴミなどの廃棄物を固
形燃料にしたもの。 (Refuse Derived Fuel の略)

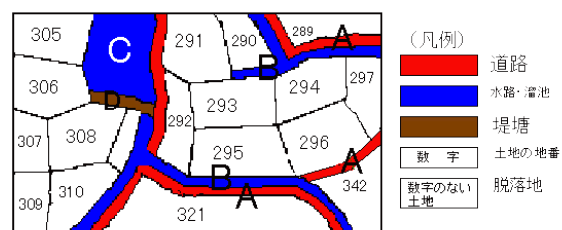


【一言】RDF 生成には費用がかかるため（一般的なごみ焼却の倍以上）、作れば作るほど自治体にとって大きな負担となっているのが現状である。
高いコストをかけて生成した RDF も品質が低いなどの理由で利用量が伸びず、ストックを大量に抱えてしまう自治体もある。

青道

あおみち、あおどう

【解説】公図上には存在するが、地番の記載がない
河川または水路である（であった）敷地を
いう。登記簿上は無籍地とされるが、国有
地である。



【一言】「青道」は、明治時代からの公図に青く塗られていたことから、こう呼びます。河川法では国土交通大臣が管理する1級河川、都道府県知事が管理する2級河川、市町村長が管理する準用河川に区分しており、いずれの指定をも受けていない河川または水路等は、河川法の適用外にある。「法定外公共物」もしくは「普通河川」とも呼ばれています。

赤道

あかみち、あかどう

【解説】公図上には存在するが、地番の記載がない道路である（であった）敷地をいう。
登記簿上は無籍地とされ、道路法の適用はないが、国有地である。

【一言】「赤道」は、明治初期の法律による「里道」などのことで、明治時代からの公図（和紙で作られていた）では赤く塗られていたことからこう呼ばれます。

暗渠排水

あんきょはいすい

【解説】水田等の地下水を下げて「乾田化」するための工法の一つ。必要な時に端部を開けて（排水路に水を流して）水田中の水を抜くことによって収穫時や耕耘時の農業機械の使用を容易にすることができる。



【一言】吸水管は以前の「素焼き管」に代わって、プラスチック系コルゲート管が多く利用されるようになりました。被覆材（疏水材）は「もみがら」が主流ですが、地域によって貝殻や碎石を用いることもあり、地球温暖化対策の炭素貯留として木材チップも試験導入されています。近年は「ドレンレイヤー工法」という自動埋設暗渠（弾丸暗渠式）により、もみがらと吸水管を同時に布設する例が多くなりました。似たような言葉で「管排水」というものがありますが、これは排水路を地下に埋設したもので、畑地帯の排水などに使用されています。



違算

いさん

【解説】工事積算価格を算出した際に、入力ミスや数量ミス、適用等を間違えたために、算出金額が誤っていること。

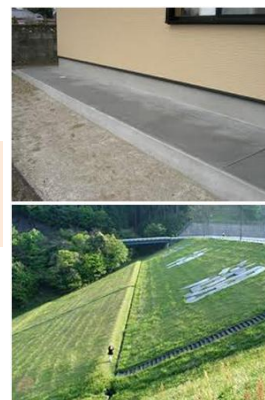
【一言】近年は積算内容を公表するようになったので、契約前あるいは契約後に業者から違算を指摘され、入札見送りや契約解除になる事例も増えていますので、間違いのないようきちんとチェックして下さい。

犬走り

いぬばしり

【解説】建築物の周囲に設けられた細長い平地や、ダムや田んぼの法面（のりめん）の中段に作られるステップなどを言う。

【一言】犬が通れるほどの空間という意味（城の垣などと溝・堀との間に設けられた通路状の空き地）ダムや橋梁などの高所、劇場や工場施設の上部などに設置される狭い通路は「キャットウォーク」といいます。（ファッションショーのモデルが歩く通路もキャットウォークといいます）



インターロッキングブロック

いんたーろっきんぐぶろっく

【解説】舗装や公園等に用いるコンクリートブロックの一種。

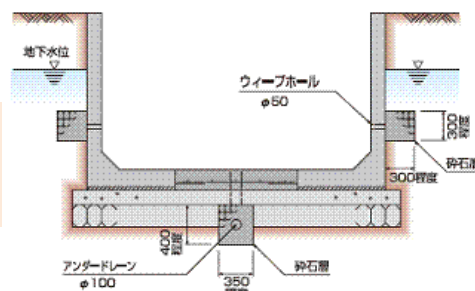


ウィープホール

ういーぷほーる

【解説】河川・水路工事などで、地下水を水路等に抜くために取り付ける逆流防止弁の付いた水抜管。

【一言】地下水位が高い場合は浮力検討を行い、必要があればウィープホール、アンダードレーンを設置して水路の浮き上がりを防止します。



伺い

うかがい

【解説】目上の人などに指示を仰ぐこと。一般的には文書を回議することをいう。

【一言】千葉県行政文書規定 第30条・・・起案文書は、下位の職にある者から上位の職にある者の順に回議しなければならない。

A型柵渠

えーがたさっきょ

【解説】コンクリート水路構造物の一種で、杭を等間隔に配慮し、その杭間に柵板を施す二面水路。



【一言】A型柵渠は杭が水路内側に突出しているため、現在では内面が平滑になっている「B型柵渠」が主流。

エコフィード

えこふいーど

【解説】食品残渣（ざんさ）を原料として加工処理されたリサイクル飼料のこと。

【一言】社団法人配合飼料供給安定機構が登録商標している。
以前から使われていた「残飯養豚」「生ごみ飼料」「食品廃棄物飼料」等の言葉のイメージが悪く、一般消費者に誤解や偏見を招く恐れがあるために新たな造語として「エコフィード」という言葉の使用を始めたことに端を発する。（エコフードではない）

エラストイト

えらすたいと

【解説】コンクリート構造物の目地の緩衝材として用いられる目地材の一種。熱などによるコンクリートの膨張による応力を緩和し、破壊を防ぎ、収縮時には空隙を生じない役目を果たす。



LCA

えるしーえー

【解説】ライフサイクルアセスメント(Life Cycle Assessment)のことで、製品やサービスに対する、環境影響評価の手法のこと。

【一言】ストックマネジメント手法で用いるLCC（ライフサイクルコスト）と間違えないで下さい。

エンマ（江間）

えんま

【解説】エンマとは利根川下流域の低湿地帯に、縦横に張り巡らされていた水路のこと。

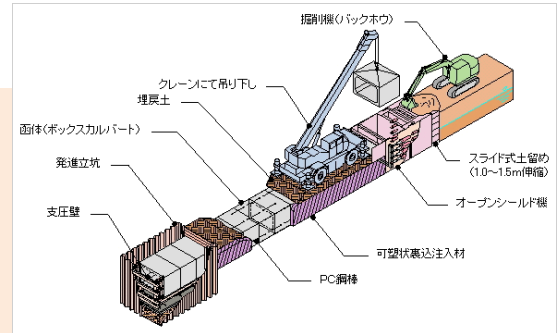
【一言】利根川下流域では土が堆積したところに新田開発が行われていきましたが、たびたび洪水に見舞われ、冠水するとなかなか水が引かない土地でした。この水路は田の用水や生活水として、そして道らしい道がなかったために「さっぱ舟」と呼ばれる舟を使った移動経路として利用されました。
江間（えんま）という水路が網羅されていたかつての佐原や茨城の潮来地方では、嫁入りも舟でした。



オープンシールド工法

おーぷんしーどこうほう

【解説】市街地での狭隘箇所、道路下、河川改修箇所などにおいて、オープンシールド機で土留めをしながら、下水道、雨水渠、河川水路、共同溝などの函渠・開渠を安全に早期に地中に埋設する工法。



【一言】開削工法の際の矢板が不要で、シールド機フロント部の3方向で囲まれた切羽地山をバックホウで芯抜き掘削をしながら、1函体分、シールド機を推進させる

海岸法

かいがんほう

【解説】津波、高潮、波浪等による被害から海岸を防護することを目的に 1956 年に制定。

【一言】1999 年に総合的な海岸管理制度を目指して「海岸環境の整備と保全」と「公衆の海岸の適正な利用」が追加され、ほぼ全ての海岸線に海岸管理者が置かれているので、当該地での工事は協議が必要になる。

回覧

かいらん

【解説】文書や資料を回し読みするために関係者に知らせるもの。回覧板

【一言】決裁をとる場合は、伺いを立てる（文書を回議する）という。
回議：千葉県行政文書規定 第30条・・・起案文書は、下位の職にある者から上位の職にある者の順に回議しなければならない。

改良区検査

かいりょうくけんさ

【解説】土地改良法（昭和24年法律第195号）第132条第1項の規定に基づく、土地改良区の会計検査のこと。

土地改良法第132条第1項・・・農林水産大臣又は都道府県知事は、土地改良区又は第九十五条第一項の規定により土地改良事業を行う第三条に規定する資格を有する者に法令、法令に基づいてする行政庁の処分又は定款、規約、管理規程、土地改良事業計画、換地計画若しくは交換分合計画を遵守させるために必要があると認めるときは、これらの者からその事業に関し報告を徴し、又はこれらの者の業務若しくは会計の状況を検査することができる。

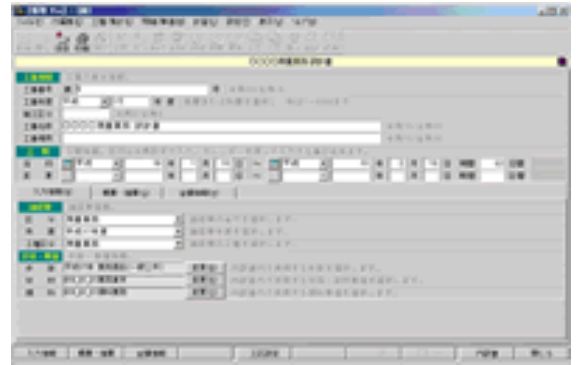
【一言】千葉県内には約 220 の土地改良区があり、県（耕地課、出先農業事務所）や国の機関が3年に1度（約80か所）改良区検査を実施しています。

カガミ（鏡）

かがみ

【解説】設計書の表紙のこと。

又は積算システムにおける設計書の総括内容を入力する場所（鏡情報という）。
（トンネル工事での掘削面先端も鏡という）



【一言】鏡情報によって、発注者や担当者、年度、地域、業務の種類など任意のグループ分けによってわかりやすく管理できます。また、一覧画面にて物件名称、本工事費や作成日時などの情報を一目で確認できます。

確定測量

かくていそくりょう

【解説】工事前の散らばった農地を整備して、新しい土地としてまとめて割り当てる際におこなう測量のこと。確定測量で作成された図面をもとにして法務局に登記申請をすることで、工事後の土地が各自に配分（権利設定）されます。

【一言】先祖代々受け継いできた大切な田畑を、条件の良い農地に整備するためには、今まで曖昧になっていた境界や登記関係を確認し、関係者の同意を得ながらきちんと整理することが、次世代のためにも大切です。

確率降水量（雨量）

かくりつこうすいりょう（かくりつうりょう）

【解説】大雨の対策を立てるために、過去の降水量の観測データから50年・100年といった長い期間に1回といった稀な大雨はどれくらいかを統計的に推定した値です。また、その現象（例えば、1日で100mm降ること）が1回起こりうる「50年」「100年」という期間を「再現期間」と言います。

【一言】ほ場整備での排水計画では、1/10確率を採用しますが、ため池の設計洪水量では200年確率（A項）等のように、重要度によって異なる確率計算をおこないます。

10 年確率降雨量とは、10 年間に一回（1日）しか発生しないというように考えがちですが、10年に一回の意味は、毎年1/10 の確率で発生する可能性があること意味しており、10 年間の発生確率ではないことを理解しておいて下さい。

片切

かたぎり

【解説】地山を掘削する際に、山の斜面の片側を削ること。

片盛

かたもり

【解説】地山の片側に（腹付したような形で）土砂を盛土すること。

下部工

かぶこう

【解説】橋梁工事の橋台部分に代表されるように、上部構造からの荷重および背面からの土圧荷重等を支持する構造の部分。

釜場排水

かまばはいすい

【解説】湧水等がある工事で、区域内の水を掘削面より一段低くした「釜場」を作って、そこに水を集めてポンプで排水する工法。



環境創造区域

かんきょうそうそういき

【解説】自然と共生する環境を創造するための施設等を重点的に整備する区域のことで、「田園環境整備マスタープラン」の中に位置づけられる。

【一言】平成14年4月施行の土地改良法改正により、環境との調和への配慮を行うことが事業実施の原則となり、農業農村整備事業において適切な環境配慮対策を実施するには中長期的な展望を持ちつつ、地域的な広がりの中での整合性を確保した対応が必要になることから、地域の環境特性等を踏まえて、環境との調和に配慮した基本的な方針を取りまとめた田園環境整備マスタープランを策定し、これに基づき、事業を実施することとしています。

環境配慮区域

かんきょうはいりょいき

【解説】工事を実施するにあたり、環境に配慮した工事の実施を行う区域のことで、「田園環境整備マスタープラン」の中に位置づけられる。

間接工事費

かんせつこうじひ

【解説】工事原価の積算において、直接工事費以外の工事費であり「共通仮設費」と「現場管理費」で構成される。

【一言】皆さんが使用している「積算基準」の中の共通仮設費率と現場管理費率は、実際に行われている工事の「間接工事費等諸経費動向調査」結果により毎年決定されています。

「共通仮設費」は率計上と積み上げで、機械等の運搬費や現場の安全管理費等が該当します。

「現場管理費」は率計上で、工事を監理するために必要な現場常駐社員の給与や、労災保険等の法定福利費がある。

かん排

かんばい

【解説】「かんがい排水」の略
灌漑（かんがい）とは農地に外部から人工的に水を供給すること

【一言】かんがい排水事業は、農業生産の基礎となる水利条件を整備し、水利利用の安定と合理化を図るとともに、農業生産条件の整備の根幹をなすものであり、土地改良法第2条第2項第1号の規定による「農業用排水施設水施設」の新設、管理、廃止または変更を行う事業です。事業内容としては、用排水施設を新設または再編整理し、地域に適した水利、排水システムを確立するために、用水対策としてダム、頭首工、用排水機場、用水路等を、排水対策として排水機場、排水樋門、排水路等の整備を行います。

技師A

ぎしA

【解説】設計業務積算で用いる職種名。

定義：一般的な定型業務に精通するとともに高度な定型業務を複数担当する。また上司の指導のもとに非定型的な業務を担当する。

【一言】設計業務では他に、「主任技術者」「理事・技師長」「主任技師」「技師B」「技師C」「技術員」等がある。

技術経費

ぎじゅつけいひ

【解説】業務委託積算において、建設コンサルタント等における平素からの技術能力の高度化に要する経費等で、技術研究費及び専門技術料からなる。

供用

きょうよう

【解説】使用に供すること。多くの人が使えるようにすること。

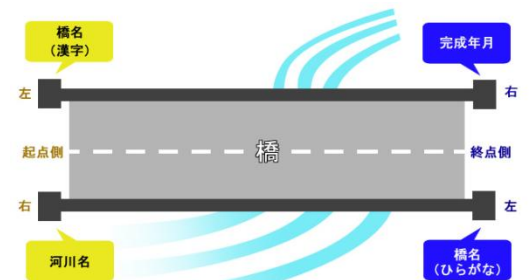
【一言】「道路を供用開始する」とかに使います。

橋梁

きょうりょう

【解説】橋のこと。

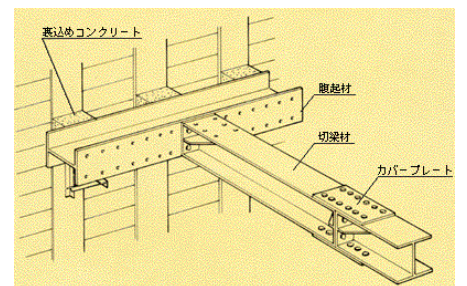
【一言】河川に架かる橋の名前（橋名盤）は、一般的に右図のような表示が多いです。漢字を読めない人のために「ひらがな」を書くのは江戸時代からの名残かもしれません。皆さんの自宅近くの橋名盤は、どう表示されていますか？



切梁

きりばり

【解説】山留壁が受けた土の圧力（土圧）や水圧を、腹起を通して支えるもの。



切回し

きりまわし

【解説】工事に支障になる水道管などを、一時的に迂回させること。

グライ土層

ぐらいどそう

【解説】地下水位が高く、その影響でグライ化作用を受けてできた一連の土壌型の総称。グライ化作用とは還元条件下で起こる土壌生成過程で、特に酸化第一鉄化合物が生成し、青～緑色の還元的土層（グライ層）ができる。



【一言】グライ層は空気が著しく少ない土壌であり、その出現深度が作物の生育及び収量に大きく影響を及ぼすことになる。
グライ層の出現深度は、その土壌の年間平均地下水位とほぼ一致すると考えられており、乾田では深く、湿田では作土層や作土層の直下から出現する。
暗渠排水の施工により地下水を低下させ、空気と触れることによって酸化状態に変化させることができる。

計画降水量

けいかくこうすいりょう

【解説】河川や排水路断面を決定する際の基準となる計画雨量のこと。

【一言】関連用語＝確率降水量、確率雨量

畦畔ブロック

けいはんぶろっく

【解説】水田の境界に沿って設置されている畦畔（けいはん）は、一般的に土を盛って設置されているが、条件によって、コンクリート製やビニール製のブロックで設置することもある。



計変

けいへん

【解説】「土地改良事業計画の変更」の略

土地改良事業（農業農村整備事業）は受益農家の申請、同意を基本条件として事業計画を策定し、所定の法手続（土地改良法の手続）を経た後に計画が確定され、事業が実施されます。

（一部法手続きを不要とする事業もあります）

計画変更は、実施されている事業計画を見直す必要が生じた場合におこなうもので、計画変更の内容審査（千葉県農業農村整備事業計画審査委員会）や、事業計画時と同様の法手続きをおこなう必要があります。

【一言】計画変更は「農林水産省令で定める重要な部分の変更（土地改良法第87条の三、土地改良法施行規則第38条の二）」に該当した場合に実施されます。

具体的には①施設の追加又は廃止、②施設の位置の大幅な変更、③水路の総延長の20%以上の変更、④労賃及び物価変動以外の主要工事計画に係る事業費の10%以上の変動、等の場合に実施されます。

決裁

けっさい

【解説】決裁とは総合文書管理システムや書類で伺いをたてて、最終的にその方針を承認する権限のある人が、承認もしくは否決して結論を出す事です。

【一言】決裁をとるためには起案をおこないます（千葉県行政文書規程第24条）が、このことを一般に「決裁をとる」と言います。

間知石

けんちいし



【解説】石垣や土留めに用いる建築、土木資材のこと。

【一言】6つ横に並べると1間（約180cm）になることから名付けられた。短辺が30cm前後の石。石垣や土留の表面は正方形～長方形であるが、背後に控え部分を持ち全体的に角錐型となっている。

交付規則

こうふきそく

【解説】補助金等の交付の申請及び決定等に関する事項その他補助金等に係る予算の執行に関する基本的事項を規定している規則。

千葉県補助金等交付規則（昭和32年9月20日規則53号）

交付決定

こうふけってい

【解説】補助金等の交付申請の審査を受けて、交付が決定されたことをいう。（交付決定通知として国から県、あるいは県から関係団体に通知される）

【一言】国の補助金等の手続きについては補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（補助金適正化法）によって処理が行われている。また、国が地方公共団体に交付する補助金等については、地方財政法に規定がある。

交付申請

こうふしんせい

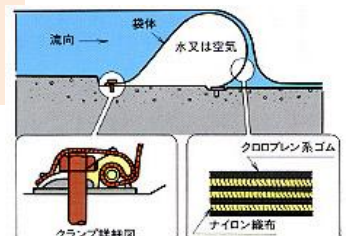
【解説】補助金等を交付してもらうためにおこなう申請のこと。

ゴム堰（ゴム引布製起伏堰）

ごむぜき

【解説】ゴム引布製のチューブに空気や水を注入・排出することで起伏させる堰。
これにより水位を上昇させ水田等に引水する。
ラバーダム、バルーンダム、ファブリダムともいう。

【一言】堰（せき）は、設置地点の地質や地形に応じて、そのタイプが決定されます。大河川では躯体（くたい）はコンクリートで、扉体（ひたい）が鋼製のものが主体ですが、幅の狭い農業用水路では、コスト面や操作性等を考慮した「ゴム堰」が多く設置されています。



御明算【御名算】

ごめいさん

【解説】計算が正しかったときの丁寧語。

【一言】工事積算チェックの際、主任等が検算をおこない、数量ミスや適用等の間違いがなく、算出金額が正しかった時に使うようですね。

こより（紙縊り）

こより

【解説】設計書などの厚い書類を綴じる時に使う紙の紐。

【一言】昔は髪を束ねたり、着物の収納袋や冊子を綴じるために使用されていました。
「こより」に糊を引き、染色あるいは箔加工したものが「水引」となる。

コンクリートポール

こんくりーとぽーる

【解説】コンクリート製の電柱。電気の送配電柱、通信柱、信号柱、防球ネット柱、照明柱などに使用されている。

【一言】電柱には、木柱、鋼管柱、コンクリート柱があるが、耐久性などから現在はコンクリート柱が一般的に使用されている。

最低制限価格

さいていせいげんかかく

【解説】発注者が事前に設定する落札下限価格。
劣悪な施工を防ぎ、品質を確保する目的で設定したもの。
千葉県の場合、予定価格の70%の額（下限額）から90%（上限額）の範囲内で、
材料・労務費や難易度などを考慮して決定する。

財務端末

ざいむたんまつ

【解説】千葉県財務規則に基づく財務情報システムの端末。

【一言】千葉県の財務情報システムは昭和61年4月に稼働し、システム追加しながら財務基本、資金管理、予算編成、財産管理、用品管理等を運用しています。

残改（残事業改定）

ざんかい（ざんじぎょうかいてい）

【解説】事業の全体計画を見直したり、単価スライド、労務費UP等に伴う総事業費を改定する作業のこと。

【一言】内容を聞き取ることを「残改ヒアリング（残改ヒア）」といいます。

ジオセル工法

じおせるこうほう



【解説】ジオセルとは、板状や網状の高分子材料を蜂の巣構造に組合わせた立体補強材で、このジオセルを用いて、路盤や法面を強化する工法です。

σ

しぐま

【解説】 Σ （しぐま）の小文字で、材料工学の式においては応力(stress)を表す。

【一言】構造力学では「曲げ応力度」として表現されます。

コンクリート梁(はり)などが曲げられたときに、凸側には引っ張りの、凹側には圧縮の応力が生じますが、その時の曲げモーメントを受ける物体の、軸方向と直角の断面に生じる応力のことをいいます。

コンクリートの呼び強度で、例えば 18-8-25 とは呼び強度=18 (N/mm²) の応力、スランプ=8 (cm)、粗骨材の最大寸法=25 (mm) のことですが、この18が応力度を表します。

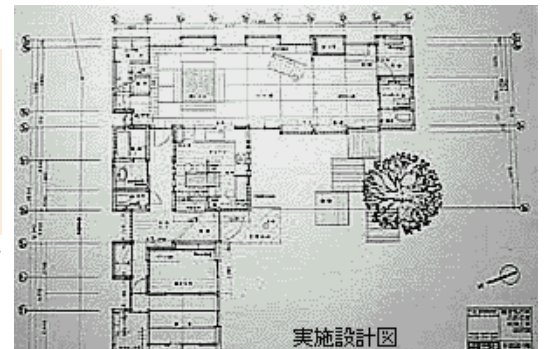
実施設計

じっしせつけい

【解説】具体的に工事が実施できる程度までの設計をおこなうこと。（発注用の詳細な設計図を作成し、工事費の積算ができるまでの作業）

【一言】計画の初期段階の「概略設計」や「基本設計」に比べて、より詳細な設計をおこなうことをいう。

単に構造物を計画するだけでなく、仮設計画や、重機の搬入計画等のきめ細やかな項目について提案・検討できるコンサルが優秀なコンサルです。



ジピリジル反応

じびりじるはんのう

【解説】水田や畑の土壌調査において、ジピリジル液を土塊に吹きつけ、色の程度から土壌の還元状態を判定するもの。

【一言】ジピリジル反応：土壌が酸素欠乏の状態にあるかどうかを判定するもので、赤く色がついている所が還元状態。

作物の根が主に生育する作土層だけでなくその下層の状態を観察することで、土層における水の挙動、作物の根の伸長阻害や透水不良な密な層を把握することができ、作物を生産する上で重要な情報を得ることができます。



ジピリジル反応：土壌が酸素欠乏の状態にあるかどうかを判定(赤く色がついている所が還元状態の色を比べて判定)

【土壌調査方法】



土壌硬度計（山中式）：
土壌の硬さ（ち密度）を測定



土色帳：
土壌の色を比べて判定

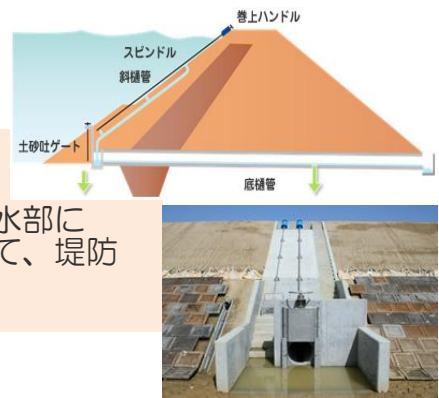


サンプリング：土壌の物理性試験に用いる試料を採取（100ccサンプラー）

斜樋

しゃひ

【解説】ため池堤体の前面に沿って埋設された斜樋管に取水孔を設けて、これから取り入れた用水を堤体の底部に埋設する底樋に導いて取水します。取水部には、取水量を調節するゲート・バルブ等を設置して、堤防上の巻上げハンドルで操作を行います。



臭気判定士

しゅうきはんていし

【解説】悪臭防止法に基づき創設された国家資格（社団法人が実施）

【一言】千葉県内にも「臭気指数規制」地域、「物質濃度規制」地域があります。

竣工

しゅんこう

【解説】建築工事や土木工事が終了すること。事業の完了も竣工という。

証拠書類

しょうこしよるい

【解説】証拠になる書類のこと。

【一言】一般的には業務で作成された文書（公文書）のことをいう。
裁判でいう証拠資料とは裁判官が証拠方法から得た内容をいい、証人の証言や書証の記載内容のことを指す。
（証拠方法：事実を認識するための資料をもたらす有形物で、裁判官による証拠調べの対象となる人や物そのものをいい、日常用語として目の前に出せる物としての「証拠」という用語法に近い意味を持つ）

仕様書

しょうしょ

【解説】工事施工に必要な工事の基準を詳細に説明したもの。

仕様書は契約書類の一部で、各工事に共通する「共通仕様書」と、当該工事のみに該当する特殊事項を記載した「特記仕様書」がある。

譲与

じょうよ

【解説】県営事業で造成した土地改良施設や用地は県有財産であるが、工事完了後や事業完了時に土地改良区や市町村に譲与又は財産管理委託している。

諸経費

しょけいひ

【解説】公共土木工事の積算体系は①直接工事費②共通仮設費③現場管理費④一般管理費⑤消費税等相当額から構成されています。この中の②③④を諸経費といいます。

随意契約

ずいりけいやく

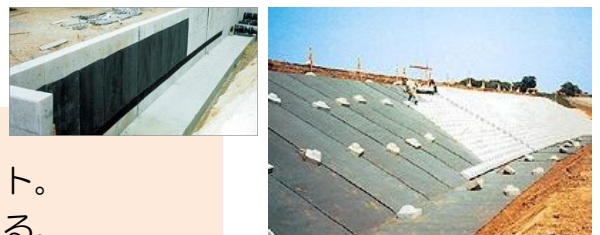
【解説】国、地方公共団体などが、競争入札によらずに任意に特定の者を選んで契約する方法。

【一言】 予定価格が規則で定める額を超えない場合は随意契約ができるとされています（地方自治法施行例167条の2第1項）
例：工事又は製造の請負 250万円、委託 100万円

吸出し防止シート

すいだしぼうしーと

【解説】主に護岸構造物の裏側に設置して、土砂が外部に流失しないように防ぐためのシート。主にポリエステルやヤシ繊維等でできている。



【一言】砂地では特に必要となります。

水理検討

すいりけんとう

【解説】河川、排水、用水等の事業計画を立てる際の水理計画を検討すること。

隧道

すいどう

【解説】トンネル（道路トンネル、水路トンネル）



【一言】日本ではかつて中国語と同じく隧道（すいどう）と呼ばれていたが、常用漢字以外の「隧」が使われているために、第二次世界大戦後の漢字制限や用語の簡略化、外来語の流入などの時代の流れによりトンネル（Tunnel）と呼ぶようになった。

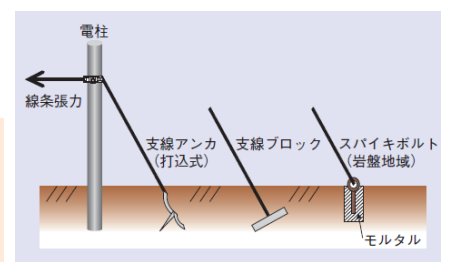
1970年OECDトンネル会議では「仕上がり断面積が2m²以上のものとする」と定義された。

鉄道や道路のトンネルには「入口」「出口」が決められており、起点に近い方が「入口」となっている。新幹線で例えると、東京寄りの坑口が「入口」であり、その逆が「出口」である。

ステーブロック

すてーぶろっく

【解説】電柱の安定及び電線の緩みを防止するため、電柱を引っ張り固定する目的で 사용되는コンクリートブロック。（支線ブロック）



ストックヤード

すとっくやーど

【解説】「一時保管場所」の意味。掘削土を一時保管したり、資機材を仮置する場所。

隅切

すみきり

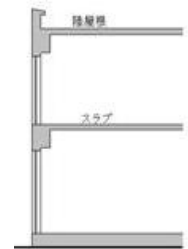
【解説】車両が安全・円滑に通行できるように道路隅部を円弧や直線でカットすること。

【一言】建築基準法では、幅員 6m 未満の道路では、隅角をはさむ 2 辺を各々 2m とした二等辺三角形の隅切りを設けるよう定められている。

スラブ

すらぶ

【解説】平面の荷重を支える鉄筋コンクリート製の板状の盤。 床板。



センサス

せんさす

【解説】人口や産業など、国や地域の様々な側面に関して調査対象のすべてを調べる統計調査。また、それと同程度の大規模な調査。

【一言】「農林業センサス」は農林業の生産構造、就業構造を明らかにすることを目的に、5 年ごとに調査しています。
「センサス」の語源は、古代ローマに“センサー”という役人がいて、5 年ごとにローマ市民の数などを調査していたことから、センサーが行う調査を”センサス”と呼んでいたということです。

千枚通し

せんまいどおし

【解説】設計書などの厚い書類に穴を開ける道具。



【一言】現在のパンチやクリップが普及していなかった昭和 50 年代までは、厚い設計書を製本して契約書を作成する時には「千枚通し」で穴をあけて、「こより」で固定していました。 苦労して作成した設計書だからこそ「きれいに製本」してあげたのです。

総合単価（総単）

そうごうたんか （そうたん）

【解説】災害復旧の申請額を算定する作業を簡素化、迅速化するために設定された単価。

【一言】施設ごとにあらかじめ定めた地区別の平均的な労務単価、材料単価、機会経費などを用い、諸経費も含めて算出した単価で、これに被災箇所の長さや面積を掛けることによって、災害復旧事業費が求められます。
申請額が 1,000 万円未満の災害申請箇所で使用できますが、大災害の場合には、この限度額が引き上げられることがあります。

ゾーニング図

そーにんぐず

【解説】「区分する・区分制度の」という意味の英語。

【一言】各自治体が環境概況の把握や土地改良施設の環境への役割・評価・課題等をまとめる「田園環境整備マスタープラン」の中で、環境配慮区域や環境創造区域を示したものを「ゾーニング図」といいます。

立毛

たちげ (りつもう)

【解説】今現在、田畑に成育中の農作物のこと。 農作物の収穫する前の状態。

【一言】用地補償に「立毛補償(りつもうほしょう)」というものがありますが、土地等の取得又は土地等の使用に係る土地に農作物の立毛があるときに補償することをいいます。

段切り

だんぎり

【解説】傾斜地に盛土する場合や既設法面(のりめん)に腹付け盛土をするとき、盛土のすべりを防ぐため前もって段をつけて施工する工法。 または大きな切土する場合に斜面安定上数段に分けて切り取ること。

【一言】一般的には高さ5m毎に小段を設けています。

千葉県行政文書規定

ちばけんぎょうせいぶんしょきてい

【解説】本庁及び出先機関における公印及び行政文書の取扱いに関して定めたもの(昭和61年4月1日訓令第13号)

【一言】例えば第40条では「公印の押印」について記載しています。

地方事務費

ちほうじむひ

【解説】国庫補助事業及び県単独事業を施行するうえで直接必要な最小限度の事務経費で、事業費に対して一定の割合で算定される額の範囲内で執行が認められています。

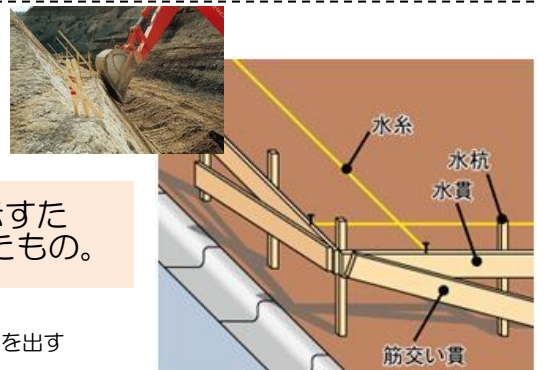
事務費は、人件費、旅費、庁費に区分されています。

丁張り

ちょうはり 又は ちょうばり

【解説】切土、盛土、築堤などの法面の仕上げの形を示すため、斜状にぬき板を設置したり、縄を張ったりしたもの。

【一言】 土木の法面の丁張りの掛け方の一例として、
木杭を打つ → 木杭の高さをレベル測る → 木杭高から基準レベルを出す
→ レベル位置に釘を打ち水平に抜き板を設置する



直接経費

ちよくせつけいひ

【解説】委託業務費積算の中の「旅費交通費」「電子成果品作成費」「特許使用料」「外部委託費」「印刷費」「通信運搬費」等の当該業務の業務処理に必要な経費。

直接人件費

ちよくせつじんけんひ

【解説】委託業務費積算の中で、当該業務の業務処理に従事する技術者の人件費。

追加割当

ついかわりあて

【解説】当初に設定した以外に、年度途中で予算を追加配分すること。

綴り

つづり

【解説】書類をまとめて製本すること。 文字を綴る。

【一言】役所では古くは、和綴（わつづり）といって、書類を背を糸でかがって製本（綴じる）していました。 現代のファイルにとじる時も「綴る」という言葉を使うことがあります。



泥水固化工法

でいすいこかこうほう

【解説】掘削用のベントナイト（海底・湖底に堆積した火山灰や溶岩が変質することで出来上がった粘土鉱物の一種）泥水を、掘削された溝の中でそのまま固化させて、不透水性の硬質粘土状物質に変える工法。（セメント系固化剤を添加混合する場合もある）

【一言】主な用途として、土留め、遮水壁、液状化対策及び地盤の補強、地下ダム等がある。



出来高

できだか

【解説】工事等のできあがっている量。 収穫の総量。 生産高。 とりだか。

【一言】出来高払いとは、工事の仕様や数量等が契約通り出来ているか否かの履行確認を行い、できている部分についての金額を払うこと。

伝建地区

でんけんちく

【解説】伝統的建造物群保存地区の略。

文化財保護法第143条第1項または第2項の規定により、市町村が、周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値が高いもの、および

これと一体をなしてその価値を形成している環境を保存するため、地域地区として都市計画決定した、または条例で定めた地区。

【一言】特に重要な地区は「重要伝建地区」として指定されるが、千葉県では香取市佐原伝統的建造物群保存地区が指定されている。

戸あたり

とあたり

【解説】戸を開け閉めするときの扉の動きを制御する部分のこと。
水門等では、ゲートが外れないようにした工作物。



特別調書

とくべつちょうしょ

【解説】会計検査院から求められる調書のこと。

【一言】会計実地検査の際の個別案件毎の検査とは別に、例えば全国的な調査テーマを決めて、その内容について事前に要求してくる調書です。

ドライワーク

どらいわーく

【解説】工事の際に地下水を下げたり、流入水を排除するなどして作業しやすい環境を作ること。またはその状況。

【一言】迂回水路を設けたり、ウエルポイントを設置して地下水を下げたり、釜場排水するなどして作業環境を良くします。

農業経営基盤強化促進法

のうぎょうけいえい きばんきょうか そくしんほう

【解説】効率的・安定的な農業経営の育成を図るために昭和 55・5・28 に制定された法律。 農業経営の改善を計画的に進めようとする農業者に対して、農用地の利用の集積や経営管理の合理化、農業経営基盤の強化を促進するための法律。

農振（農振地域）

のうしん（のうしんちいき）

【解説】「農業振興地域の整備に関する法律（昭和44年施行）」で指定された区域のこと。農振地域は、「農用地区域」（優良農地として概ね10年間、農地として保全、確保すべき地域＝青地）と、「非農用地区域」（それ以外の区域＝農振白地）に分かれています。

【一言】 ・農振法が成立した背景には、昭和40年代の高度成長に伴い農地の潰廃や農業経営の粗放化といった問題が発生し、農地の集団性が阻害され、効率的な営農が困難になるといったことから、「優良農地」を保全するとともに、非農業的土地利用との調整を図ることにしたわけです。
・農地法や農地法に基づく農地転用許可が、現況であれ公簿上であれ、すべての農地に関わってくるのに対して、農振法では主に「優良農地」にスポットを当てているところに、農地法と農振法との違いがあります。

農村振興総合整備事業

のうそんしんこうそうごうせいびじぎょう

【解説】農業生産基盤と集落基盤の総合的な整備を実施し、農業生産性の向上を図りつつ、快適な生活環境と定住条件が確保された個性的で魅力ある村づくりを推進するために平成13年度に創設された。（村づくり交付金）
平成23年度に「農山漁村地域整備交付金」に移行しました。

バイオマスタウン

ばいおます たうん

【解説】バイオマスの発生から利用まで最適なプロセスで結ぶ総合的な利活用システムが構築された地域、またはこれから行われることが見込まれる地域。
これにより、地域内・関係府省間・全国の市町村間でバイオマスの情報の共有と連携が図られる。

【一言】平成16年8月から募集し、平成23年4月時点で全国318市町村、千葉県内では9市町が構想を公表している。
（山武市、白井市、旭市、大多喜町、睦沢町、市原市、館山市、南房総市、香取市）

排水ドレーン

はいすいどれーん

【解説】排水する設備のこと。

【一言】例：家のベランダの排水設備。舗装（浸透性舗装）の排水ドレーン側溝。
この他に排水工法として、軟弱地盤の中に排水材を多数打設して排水経路を確保する工法をさす場合もあります。



バイプロハンマー工法

ばいぷろはんまー こうほう

【解説】振動式杭打機（圧入機）で強制振動を杭や鋼矢板に伝達することにより、先端の抵抗及び摩擦抵抗を急速かつ一時的に低減させ、打ち込みや引き抜きを行う工法。

【一言】原動機は電動モータと油圧モータの2種があるが、最近では油圧モータを駆動源とする油圧式バイプロハンマの普及率が向上し、起動・停止時のクレーンおよび地盤との共振を解消して運転中も偏心モーメントを任意に変換して、振幅、振動加速度、起振力等の振動エネルギーを可変できるタイプが増えてきた。



バタ角

ばたかく

【解説】型枠仮設補強などに使われる木材で、通常10cm角前後の角材のこと。

【一言】以前はコンクリート型枠の板を押さえるためにも使われていましたが、昨今では鋼製の単管が主流となりました。



腹付け盛土

はらづけ もりど

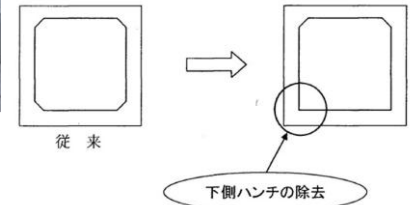
【解説】既設盛土法面にさらに行う拡幅盛土のこと。

ハンチ

はんち

【解説】コンクリート部材端において、圧縮応力の局部的増加を緩和するために設ける三角形形状のもの。

【一言】ボックスカルバートでは、施工性の向上（簡便化）から下部のハンチを除去するようになっている。



ヒアリング

ひありんぐ

【解説】予算や業務を「聞き取る」こと。

【一言】総事業費改定ヒアリング（残改ヒア）とか、予算要求ヒアリング等で使います。

B・L・H

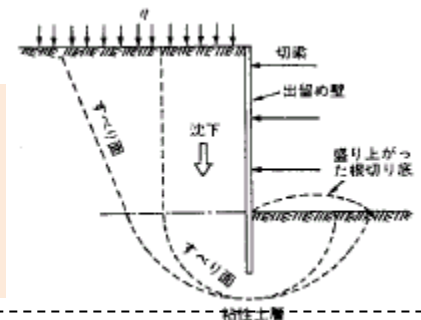
びー・える・えいち

【解説】幅＝breadth、長さ＝length、高さ＝height のこと。

ヒーピング

ひーびんぐ

【解説】軟弱な粘土地盤を掘削する場合、掘削背面の土塊重量が掘削面下の地盤支持力より大きくなると、地盤内にすべり面が発生し、このために掘削底面に盛り上がりが生ずる現象。



桶管

ひかん

【解説】堤防を横切って「用水の取水や内水の排除」を目的として設置されている施設。

【一言】桶門や桶管というが、円形のを桶管という例が多い。
水門との違いは、樋門や樋管は堤防の中に水路（これが本体）が埋設されていることで、堤防に埋め込まれた水が流れるトンネルのようなもの。



扉体

ひたい

【解説】水門（ゲート、バルブ）の中で水圧を受ける板状の構造物。



φ

ふあい（まる）

【解説】直径を表す記号。

【一言】製図での「直径記号」（マル〇に斜線／）の代用として使われており、正しくは「まる」と呼ぶが、今では一般的にギリシャ文字のφを使い「ふあい」と呼ぶことが多くなった。「パイ」と訛って読まれることがある。
数学での空集合を表す∅（ゼロ〇に斜線／：ノルウェイ語）が無い時の代用としても使われていた。

風致地区

ふうちちく

【解説】1919年（大正8年）に制定された都市計画法において、都市内外の自然美を維持保存するために創設された制度にもとづき指定された地区のこと。
指定地区においては、建設物の建築や樹木の伐採などに制限が加えられます。

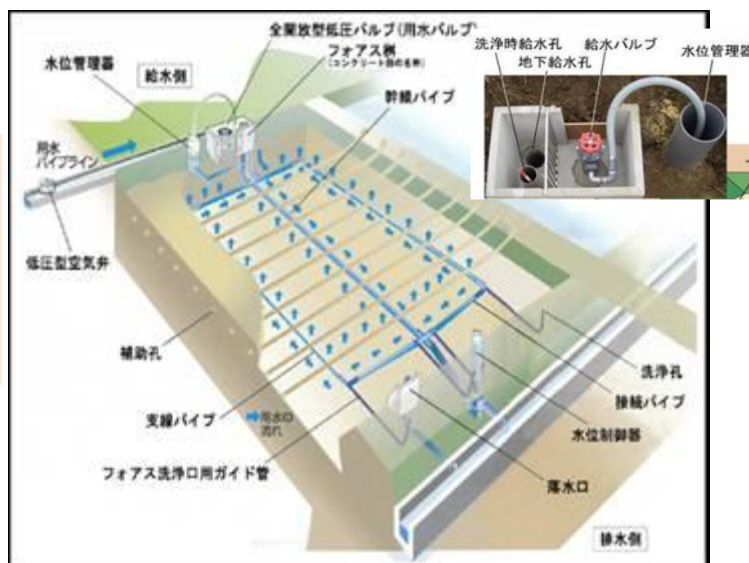
【一言】千葉県内では市川市、船橋市、銚子市、香取市内の16地区が指定されています。
風致とは「おもむき」「あじわい」の意味です。

FOEAS

ふおあす

【解説】水田としての機能を維持しつつ、高い排水機能と地下からの灌水機能を併せ持ち、地下水位を自由に設定できる地下水位制御システムのこと。

【一言】FOEAS【フォアス】地下水位調節システムは、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所と㈱パディ研究所が共同開発した特許工法です。湿害と干ばつの両方に対応して、作物に最適な地下水位を維持できるシステムの導入により、田畑輪換を可能にし、水田の有効活用を図る。



歩掛

ぶがかり

【解説】ある一定の工事に要する作業手間ならびに作業日数を数値化したもののこと。
【一言】工事費の積算は、歩掛×単価で計算し、歩掛は国が実施する歩掛調査を基に決定されます。

例えば1m3の穴を人力で掘る作業があった場合、普通作業員と呼ばれる作業員が3人で4時間要するとすると、
3人×4時間=のべ12時間、1日の労働時間を8時間として12/8=1.5人 によって、この作業の歩掛は
普通作業員1.5人工(にんく)となります。

フラップゲート

ふらっぱげーと

【解説】規模が小さい排水用の樋管などに用いる蝶番式(蝶交式)の扉。上端の ヒンジ構造で長方形または円形の扉を支え、水位の上昇によって自然に閉まる。



ふるさと点検マップ

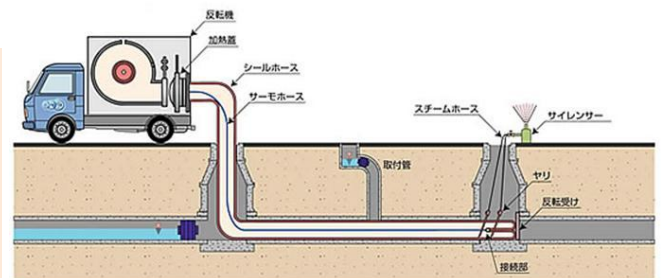
ふるさと てんけんまっぷ

【解説】「中山間ふるさと・水と土保全対策事業」の調査研究として作成される地図。地域活動の活性化を通じた土地改良施設や農地の機能強化・保全に関する基本的対策等を検討作成する際の基礎資料として利用する。

ホースライニング工法

ほーすらいにんぐこうほう

【解説】老朽管にライニング材（不織布に硬化性樹脂を含浸させたもの）を反転機によって圧縮空気反転挿入し、管内面に圧着させてから圧縮空気を蒸気に切り替えてライニング材を硬化させる管更生工法。



ボックスカルバート

ぼっくすかるばーと

【解説】断面が四角形の短い箱で、道路や水路などによく使われる。四角いことから「函渠」とも呼ばれる。カルバートとは暗渠の意味。



見積

みつもり

【解説】金額・量・期間等を前もって概算すること。見積り、見積もりとも書く。また、それらを書面に記載したものを見積書（みつもりしょ）と呼ぶ

明許

めいきょ

【解説】繰越明許費のこと。

【一言】 地方自治法 第二百十三条

1. 歳出予算の経費のうちその性質上又は予算成立後の事由に基づき年度内にその支出を終わらない見込みのあるものについては、予算の定めるところにより、翌年度に繰り越して使用することができる。
2. 前項の規定により翌年度に繰り越して使用することができる経費は、これを繰越明許費という。

モーターグレーダー

もーたー ぐれーだー

【解説】 整地用途に使用される自走式の産業用車両、建設機械。

当初はトラクターで牽引される器具だったが、エンジン(モーター)を搭載した自走式となり、モーターグレーダーと呼ばれるようになった。



【一言】 道路工事における路床・路盤の整地作業、工事現場での整地、除雪作業に使用される。

道路整地ではロードローラーと組み合わせて使用される。

用悪水路

ようあくすいろ

【解説】 田畑に水を注ぐための農業用水路(かんがい用水)及び、悪水排出用の水路。不動産登記簿に記載されている地目の名称。

【一言】 土地の登記記録に記載されている地目は、土地をその利用状況によって区分したもので、法律によって23種類が定められています。

その中で「用悪水路」は、かんがい用又は悪水はいせつ用の水路となっている。(不動産登記事務取扱手続準則 第68条16号)

熔融式区画線

ようゆうしき くかくせん

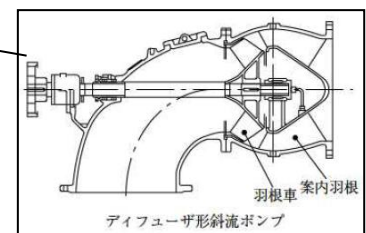
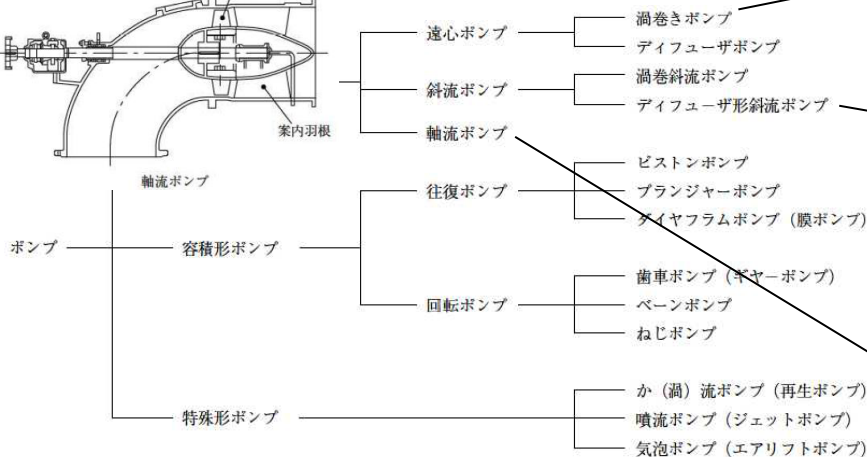
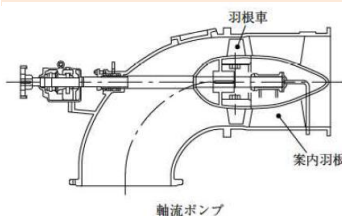
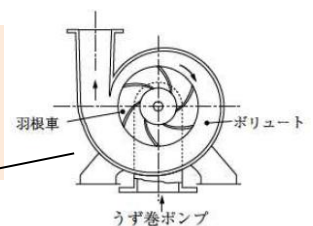
【解説】 熔融式区画線は200度前後に加熱した材料を路面のアスファルト等に溶着していくものです。

【一言】 区画線には「ペイント式」と「熔融式」があり、ペイント式は常温ペイントと加熱ペイント(50~80度に加熱)があり、圧縮空気の力を利用してスプレーガンから一定のパターンで路面に噴射するものです。

横軸斜流ポンプ

よこじく しやりゅうぽんぷ

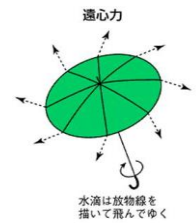
【解説】 ポンプの据付形式が横(羽根の軸が横)で、片吸込の羽根車を備えたポンプ。ケーシング上下が二つ割の構造を採用しているためメンテナンス性にも優れている。



【一言】傘を回して傘の先端からしずくが勢よく飛ぶような「遠心力」を利用した原理で、ポンプのケーシングに水を充填しておき、その中の羽根車を高速で回転させることにより、羽根車でかき回された水がエネルギーを与えられて外周に向かって流れ、外に排出される。

水をくみ上げるもっとも古い装置は、はねつるべを使う「つるべ井戸」で、紀元前 1550 年ごろからエジプトで灌漑（かんがい）に用いられていた。

ポンプ（オランダ語：Pomp）は機械的なエネルギーを液体・気体の圧力・運動エネルギーに変換させる流体機械をいう。

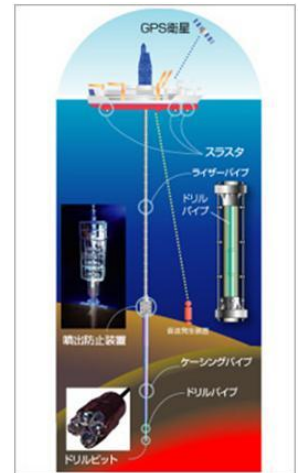


ライザー管（パイプ）

らいざー かん（パイプ）

【解説】ボーリング調査等で、ドリルパイプの周りに別のパイプを設けて2重管とし、2つの管の間を泥水・削り屑等を通すことができる外側の管。

【一言】地球探部観測船「ちきゅう」のボーリング調査では、海底下から 7,000 メートルを掘りぬいてマントルへと到達し、大陸移動、大規模火山活動、地震等の解析に役立っています。



ライニング工法

らいにんぐ こうほう

【解説】ライニングとは裏付け・裏張りの意味で、老朽化して機能低下した農業用の開水路や排水路の表面を保護し、水密性や粗度係数の改善などの機能復元・長寿命化を図る工法。

【一言】ライニング材は近年各種材料が使われていますが、ひび割れ程度、防食性能、工期、臭気、コスト、工事規模などによって工法や材料などを選定します。



ラフタークレーン

らふたー くれーん

【解説】ラフテレーンクレーン (rough terrain crane) は、自走行することのできるクレーン。



【一言】ラフタークレーンは、走行とクレーン操作を一つの運転席で行う。

（運転席が別々な建設用重機は「オールテレーンクレーン」という）

四輪駆動、四輪操舵システムを装備しているため機動性に優れるが、最高速度が 50km/h までしか出せない上、エンジンが同程度のトラックよりも小さいため、公道を走行すると後方が渋滞する場合がある。

また、大型のものは全長や全幅、重量などで制限を超えるため、公道の走行には道路管理者の特殊車両通行許可が必要となる。一部の大型車種については前後に誘導車を付けて、夜間しか走行できない車もある。

リフレクションクラック

りふれくしょん くらっく

【解説】コンポジット舗装（セメント系の基盤の上にアスファルト舗装する）やセメント安定処理路盤の上層にあるアスファルト舗装に生じるひび割れ。

リボンテープ

りぼん てーぷ



【解説】工事写真の撮影に際して、寸法を見やすくした大きなスケールのこと。
配筋状況や道路幅等を表示する時に用いる。



令達

れいたつ

【解説】令達とは「命令を伝えること」、または「その命令」のこと。
役所では予算を令達する時に多く使われます。

瀝青材

れきせいざい

【解説】アスファルト舗装の表層・基層の結合材として用いられるほかに、防水材、目地材、塗布材・土質安定剤などに用いられる。
瀝青を主成分とする材料で、タールとアスファルトが使用されている。

Low Water Level

ろー うおーたー れべる

【解説】L.W.L で表し、①河川の低水位、②ダム（貯水池）の運用計画上の最低の水位、③潮位の影響を受ける場合は「朔望平均干潮面」（朔（新月）及び望（満月）の日から5日以内に現れる各月の最低潮位を平均した水面）をいう。

【一言】H.W.L（Hight Water Level）計画高水位（けいかくこうすい）は①河川の計画高水位＝計画高水流量が河川改修後の河道断面（計画断面）を流下するときの水位。高水「たかみず」と呼ばれることも多い、②「朔望平均満潮面」（各月の最高潮位を平均した水面）をいう。

六角クロム

ろっかくろむ

【解説】クロムは銀白色の光沢のある耐食性、耐熱性、耐摩耗性に優れた金属で、ステンレス鋼の重要成分として利用されているが、六価クロムは強い酸化剤で金属メッキ、皮なめし、顔料などで広く用いられてきた。

セメント及びセメント系固化材を使用した改良土では、土中に含まれている六価クロムが土壤環境基準を超える濃度で溶出するおそれがあるため、建設工事の施工にあたっては、事前に六価クロム溶出試験を実施している。

【一言】1973年3月、東京の地下鉄工事中に化学工場の跡地から六価クロム化合物を含む鉍滓が発見され、六価クロムによる土壤汚染問題が大きな社会問題となった。

六価クロムによる環境汚染を防止するため、水及び土壌の環境基準の他、水質汚濁防止法（1970）の排水基準が設定されている。

セメント及びセメント系固化材を地盤改良に使用する場合、現地土壌と使用予定の固化材による「六価クロム溶出試験」を実施し、土壤環境基準を勘案して必要に応じ適切な措置を講じることになっている。